

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	公共交通補助事業	部局名	都市計画部
		課(室)名	都市計画課

【基本情報】

基本目標	05 快適に暮らせるまちをめざして
政策	01 機能的・効率的なまちを形成する
施策	05 公共交通機能を充実する
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	道路運送法、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（国）、兵庫県県土整備部補助金交付要綱

【事業概要】

現状と課題	利用者の減少に伴う、路線バスの休止への対策として、既存路線への補助拡大や「かこバス」「かこバスミニ」への転換などを行っている。事業者の乗務員不足が深刻化しており、人件費の高騰や路線の維持・拡充が困難となってきた。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	市民が通勤・通学・通院・買い物など生活する上で必要不可欠な路線バスの維持と、公共交通不便地域の解消を図る。
対象 ※誰、何に対して	全市民、特に市域内において公共交通による移動手段を必要とする人
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	事業者に対し、公共交通（路線バス・かこバス・かこバスミニ）運行による損失の一部を補填する。

【コスト】

	令和2年度（決算見込）	
事業費合計	371,010 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	78,356 千円
	一般財源	292,654 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	08 土木費
項	05 都市計画費
目	01 都市計画総務費
細目	035 総合交通政策事業

【コスト推移】

	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（決算見込）
事業費合計	157,938 千円	187,376 千円	371,010 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	交通事業者に対して、公共交通運行による損失の一部を補填することで、路線バスの維持と公共交通不便地域の解消を図っている。

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	公共交通補助事業	部局名	都市計画部
		課(室)名	都市計画課

【対象】

対象指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口（10／1付推計人口）	人	263,697	262,308	261,041

【事業実績】

活動指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
かこバス運行回数	回	51,210	51,518	53,821
利用啓発活動	回	0	0	0
かこバス運行経費補填額	千円	95,498	104,963	194,173
活動指標分析結果	人件費、燃料費の高騰により令和2年度より補助方式の見直しを行ったため、運行経費補填額が増加している。また、令和2年11月から「浜手ルート」の運行を開始しており、運行回数、運行経費補填額が増加する見込みである。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目 標 値
かこバス利用者数	人	737,971	725,368	546,862	令和7年度	680,000
かこバス利用者一人あたり補助額	円	129	145	350	令和2年度	400
成果指標分析結果	利用者数は増加傾向にあったが、新型コロナの影響を受け利用者が激減している。なお、令和2年11月から「浜手ルート」の運行を開始しており、一人あたりの補助額は増加する見込み。					

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	自家用有償旅客運送事業	部局名	都市計画部
		課(室)名	都市計画課

【基本情報】

基本目標	05 快適に暮らせるまちをめざして
政策	01 機能的・効率的なまちを形成する
施策	05 公共交通機能を充実する
事業実施期間	平成27年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	両荘地区
関連根拠法令等	道路運送法、加古川市自家用有償旅客運送事業実施要綱

【事業概要】

現状と課題	運行管理、運転者は地域住民で構成する「上荘公共交通協議会」が行っている。出勤や買物、医療では、自家用車の利用が交通の中心となっているが、今後も高齢化が進む傾向がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	公共交通不便地域の解消を図る。
対象 ※誰、何に対して	上荘町住民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	市町村運営有償運送(上荘くるりん号)を運行する。

【コスト】

		令和2年度(決算見込)
事業費合計		1,042 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	120 千円
	一般財源	922 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	08 土木費
項	05 都市計画費
目	01 都市計画総務費
細目	035 総合交通政策事業

【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算見込)
事業費合計	1,645 千円	1,655 千円	1,042 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了 安全・安心な運行ができており、交通不便地域の解消に寄与している。

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	自家用有償旅客運送事業	部局名	都市計画部
		課(室)名	都市計画課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
上荘町の住民	人	4,607	4,535	4,451

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
上荘くるりん号運行回数	回	960	872	656
活動指標分析結果	平日1日につき約4便を運行している。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
上荘くるりん号利用者数	人	2,753	2,655	1,369	令和2年度	2,000
上荘くるりん号利用者一人あたり補助額	円	506	529	673	令和2年度	600
成果指標分析結果	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年3月に運行を一時休止したため、利用者数が減少傾向となっている。					